

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)事業の 実施状況及びKPIについて

(1)世界に発信する「HANABI のまち大仙」活性化プロジェクト

①事業の概要

○事業目的

「花火のまち大仙」を国内外に向け発信し、インバウンド誘客、国内誘客の強化による観光消費と交流人口の拡大を図る。

○事業期間

令和2年度～令和4年度

○事業内容

- ・「あなただけの花火」打上を主体とする観光商品造成
- ・観光・花火イベント等の情報発信
- ・国内外の観光客に向けた統一ブランドコンセプトによる商品開発
- ・中国・台湾・タイ・韓国等への輸出を視野に入れた「大曲の花火」ブランド商品・観光のPR
- ・世界に発信する「HANABI のまち」を支える人材の確保・育成

②令和4年度事業

事業費 2,874千円(交付金 1,437千円)

観光・花火イベント等の情報発信

→「大曲の花火」春、夏、秋の三大会において、FM はなびで花火大会会場からの生中継番組を放送し、花火の紹介や見方など様々な楽しみ方を発信した。

国内外の観光客に向けた統一ブランドコンセプトによる商品開発

→大仙市お土産商品ブランド「せんのぜん」の販売促進等を担うブランド協議会の事務局を大仙市観光物産協会へ委託し、販売活動を行った結果、売上額増加に繋がった。

中国・台湾・タイ・韓国等への輸出を視野に入れた「大曲の花火」ブランド商品・観光のPR

→県の「DX 加速化プロジェクト形成事業」と連携し、令和5年2月17日から26日まで新宿駅東口の駅たびコンシェルジュにてイベントを開催した。花火のVR体験をメインコンテンツに、大仙市の花火文化の紹介や「せんのぜん」のPRなどを行った。

世界に発信する「HANABIのまち」を支える人材の確保・育成

→火薬類製造及び取扱保安責任者の資格取得を支援するため、「乙種製造」「丙種製造」「甲種取扱」「乙種取扱」といった各試験区分に対応した講座を開催している。令和4年度は、日本煙火協会所属の専門講師による講座とし、受講者からは有意義な講座であったと好評価をいただいた。また、花火師向けスキルアップ講座では、全国花火競技大会審査委員長から日本の花火の安全性や芸術性、今後の可能性について講演いただいた。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI① 観光入込客数(千人)

→令和4年度は各種イベントが再開され、市全体の観光入込客数も前年度に比べ大きく増加したが、未だにコロナ禍以前の水準までには回復していない。

KPI② 観光入込客の増加による経済波及効果額(百万円)

→「観光入込客数」や「観光客の属性(県内・県外、宿泊・日帰り)別の消費単価」等の統計値に基づき、観光消費に関する需要額を推計し、秋田県産業連関表を用いた経済波及効果分析ツールにより経済波及効果額を算出している。令和3年度に比べ、観光入込客数が増加したことにより、経済波及効果額も増加しているが、未だにコロナ禍以前の水準までには回復していない。

KPI③ 外国人宿泊者数(人)

→各種イベントの再開や全国的に訪日外国人観光客が回復してきたことにより、本市における外国人宿泊者数も令和3年度から約3.6倍に増加しているが、未だに基準値の3分の1未満の実績となっている。

KPI④ 大仙市観光物産協会のお土産売上額(千円)

→JR大曲駅内にある大仙市観光情報センターでの売上額が回復したことや、ネットショッピングの規模を拡大したことなどにより、売上額は大幅に増加し、目標値を達成している。

KPI(重要業績評価指標)			基準値	R2	R3	R4	増加分の累計
観光入込客数 (千人)	実数	目標	2,631	2,685	2,739	2,793	－
		実績	2,521	1,124	1,180	2,107	－
	増加分	目標	2,631	54	54	54	162
		実績		△1,397	56	927	△414
観光入込客の 増加による経 済波及効果額 (百万円)	実数	目標	17,400	17,780	18,160	18,540	－
		実績	17,060	8,372	9,084	14,995	－
	増加分	目標	17,400	380	380	380	1,140
		実績		△8,688	712	5,911	△2,065
外国人宿泊者 数(人)	実数	目標	1,996	2,946	3,896	4,856	－
		実績	3,074	123	250	902	－
	増加分	目標	1,996	950	950	960	2,860
		実績		△2,951	127	652	△2,172
大仙市観光物 産協会のお土 産 品 売 上 額 (千円)	実数	目標	30,500	30,900	31,300	31,700	－
		実績	36,713	24,931	22,724	47,153	－
	増加分	目標	30,500	400	400	400	1,200
		実績		△11,782	△2,207	24,429	10,440

(2)アウトドア・アクティビティの聖地創造広域連携事業

秋田県、美郷町との広域連携事業

①事業の概要

○事業目的

自然公園を様々なアウトドア・アクティビティが展開できるエリアとしてアピールし、民間企業とも連携しながら活用していくことにより、国内各地や海外から、通年あるいは定期的に来訪者を獲得し、この自然公園の魅力や知名度を高め、地域の賑わい創出や地域経済の活性化などに繋げていく。

○事業期間

令和2年度～令和4年度

○取組内容

- 【大仙市】
 - ・ 親子トレッキング&山登り教室の開催(令和2～4年度)
 - ・ テーマ別ガイドマップ作成(令和2年度)
- 【秋田県】
 - ・ PR動画制作(令和2～3年度)
 - ・ 登山案内マップの作成(令和2年度)
 - ・ 登山ルート情報の発信(令和2年度)
 - ・ 真木真昼アウトドア・フェスティバルの開催(令和3～4年度)
 - ・ 真木真昼アウトドア・フェスティバル in ウィンターの開催(令和3年度)
 - ・ 老朽化施設の改築(令和3年度)
 - ・ 首都圏在住ガイド等向けモニターツアーの実施(令和4年度)
 - ・ 「あきた真木真昼トレイルラン2022」の開催支援(令和4年度)
- 【美郷町】
 - ・ 案内人・インストラクターの養成(令和2～4年度)
 - ・ 民泊に関するセミナーの開催(令和2～4年度)
 - ・ 案内誘導標識等の整備(令和2～3年度)
 - ・ デジタルサイネージによる情報発信(令和2年度)
 - ・ 大型案内看板の整備(令和3年度)
 - ・ 観光情報データベースの構築・運営(令和3年度)

②令和4年度事業

事業費 10,841 千円(交付金 5,421 千円)

(うち、大仙市事業費 1,300千円 (交付金 650千円))

[大仙市]

親子トレッキング&山登り教室の開催

→大仙市や美郷町のほかエリア外の小学生以上の若年層も対象に、将来、案内人等を志すきっかけとなるよう、山登りやトレッキングなどに関する学習教室等を開催した。

また、これまで教室を受講した方を対象に、著名登山家を招いて登山イベントを行うとともに、自然公園に関わる意識の醸成・向上を図るため特別講演を開催した。

【親子トレッキング教室】

- ① 川口溪谷親子トレッキング教室
開催日:令和4年7月30日(土) 参加者:14名
- ② 川口溪谷紅葉親子トレッキング教室
開催日:令和4年10月29日(土) 参加者:9名
- ③ 真木真昼県立自然公園ウインター親子トレッキング教室
開催日:令和5年3月5日(日) 参加者:17名

【山登り教室】

令和4年度前期分(令和3年度からの継続開催)は座学を1回、実習を4回実施した。

実施回	実施日	内容	参加者数
第7回	令和4年4月17日(日)	登山計画書のつくりかた	21名
第8回	5月15日(日)	真昼山登山	20名
第9回	6月 5日(日)	薬師岳登山(縦走)	19名
第10回	7月 3日(日)	薬師岳登山	16名
第11回	9月11日(日)	和賀岳登山	14名

【特別講演会等】

- ① 特別講演
開催日:令和4年11月2日(水) 参加者:8名
講師:小松 由佳 氏(登山家・写真家)
※日本人女性として世界第2の高峰・K2に初めて登頂
- ② 特別登山
開催日:令和4年11月3日(木・祝) 参加者:12名
コース:小路又～甘露水口～滝倉～倉方～薬師岳(目的地)

[秋田県]

真木真昼アウトドア・フェスティバルの開催

→真木真昼エリアの新たな魅力であるアウトドア・アクティビティを発信するため、5プログラム（真昼山登山・紅葉散策森林浴・マウンテンバイク体験・ノルディックウォーキング・星空観賞キャンプ）を分散して体験できるイベントを開催した。

開催日：令和4年10月22日（土）・23日（日）

参加者：133名（延べ人数）

首都圏在住ガイド等向けモニターツアーの実施

→首都圏在住のガイド等を対象として、地元ガイドがガイドングするモニターツアーを実施し、課題等の意見をいただいた。加えて、モニターツアー参加者が企画するガイドツアーも実施し、首都圏等からの誘客を行った。

【モニターツアー】

開催日：令和4年6月15日（水）～17日（金）

参加者：10名

【参加者企画ガイドツアー】

開催時期：令和4年10月～令和5年2月

ツアー企画者：7名

ツアー参加者：35名

「あきた真木真昼トレイルラン2022」の開催支援

→アウトドアスポーツのイベント企画・運営等を行う（有）パワースポーツが地元団体と共同で開催するトレイルランニング大会について、側面支援として登山道の刈払いを行った。

[美郷町]

案内人・インストラクターの養成

→令和2年度に制定した美郷町認定の「美郷町ネイチャーガイド」制度に基づき、自然公園や町内フィールドに特化した案内人・インストラクターを養成するための講習会及び小テストを実施し、7名の美郷町ネイチャーガイドを育成した。

また、大仙市・美郷町内においては、指導者としての技術習得が難しいことから、アウトドア・アクティビティのインストラクター候補者を県内外で開催される講習会等に派遣した。

【ネイチャーガイド】

① 講習会の実施：全7回

② 7名から講習会の申し込みを受領、7名の美郷町ネイチャーガイドを認定

湧水ガイド：4名（フィールド：六郷湧水群と寺町通り）

登山ガイド：6名（フィールド：真昼山等）

森林ガイド：4名（フィールド：七滝山）

星空ガイド：2名（フィールド：町民の森等）

【インストラクター】

カヌーインストラクター:1名

民泊に関するセミナーの開催

→民泊に関するセミナー(内容説明と事例紹介等)として「農泊制度」をテーマに実施した。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI① 薬師連山・真木溪谷・川口溪谷への入り込み(入山)者数(人)

→新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたことにより、県外との往来自粛も緩和され、トレイルランニング大会やアウトドア・フェスティバルなども開催されたことから、基準値(実数)を上回る数値となっている。

KPI② 真木真昼県立自然公園エリアへの観光入り込み客数(県観光統計)(人)

→新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたことにより、県外との往来自粛も緩和され、トレイルランニング大会やアウトドア・フェスティバルなども開催されたことから、徐々に回復してきているものの、コロナ禍前までの水準には達していない状況にある。

KPI③ 真木真昼県立自然公園の案内人等への新たな従事者(人)

→「美郷町ネイチャーガイド」制度に基づき、新たに7名を美郷町ネイチャーガイドに認定している。

KPI(重要業績評価指標)			基準値	R2	R3	R4	増加分の 累計
薬師連山・真木溪谷・川口溪谷への入り込み(入山)者数(人)	実数	目標	12,198	14,198	18,198	24,198	－
		実績		9,898	11,856	13,023	－
	増加分	目標	12,198	2,000	4,000	6,000	12,000
		実績		△2,300	1,958	1,167	825
真木真昼県立自然公園エリアへの観光入り込み客数(県観光統計)(人)	実数	目標	20,771	24,171	30,971	41,171	－
		実績		13,898	15,736	15,397	－
	増加分	目標	20,771	3,400	6,800	10,200	20,400
		実績		△6,873	1,838	△339	△5,374
真木真昼県立自然公園の案内人等への新たな従事者(人)	実数	目標	6	9	13	18	－
		実績		6	36	43	－
	増加分	目標	6	3	4	5	12
		実績		0	30	7	37

(3)大仙市健幸まちづくりプロジェクト

歩いてはかって地域が元気に！健“幸”が導く明日の大仙

①事業の概要

○事業目的

タニタグループ3社と連携し、「日本一健幸なまち」を目指して、全市民等を対象とした全国初の官民連携による大規模ヘルスケア事業を実施。「歩くこと」をまちの中心に据え、同グループから無償で提供いただいた活動量計などの機器を活用し、無理なく楽しみながら健康づくりに取り組める環境を創出することで、健康寿命の延伸やまちの活力向上につなげていく。また、将来的には、大規模な母集団から形成されるビッグデータを活用し、ヘルスケア産業を意識したニーズやシーズが発信できる事業環境も目指していく。

○事業期間

令和3年度～令和5年度

○取組内容

- ・ウォーキングイベントの開催
- ・健幸運動講座の開催
- ・ウォーキングマップの作成
- ・健幸食事業の実施
- ・健幸まちづくりプロジェクト属性に応じたPR事業の実施

②令和4年度事業

事業費 3,622千円(交付金 1,811千円)

健康ウォーキングマップ作成

→市内6地域において、それぞれロング・ショートコースを設定し、計12マップを作成した。

健幸ウォーキングイベント

→健幸まちづくりプロジェクト参加者を対象として、「大曲の花火」公園を会場に「健幸モーニングウォーク」を開催し、400人が参加した。

健幸運動講座

→健幸まちづくりプロジェクト参加者を対象として、イオンモール大曲を会場に「健幸運動講座」を開催し、250人が参加した。

小中学校リーダーライター設置

→小学校20校、中学校10校の計30校に、活動量計で計測されたデータを送信することができるリーダーライターを計33台設置した。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI① 健幸まちづくりプロジェクト登録者数(人)

→令和5年3月31日現在の参加者数は24,828人。

コロナ禍の影響で、外出の機会が少なくなったこともあり、健康活動への関心は高まっているものと推察されるが、登録者数は伸び悩んでいる。

KPI② 20～64歳の年代別・男女別の歩数の平均値(歩/日)

→令和4年度の一日平均歩数は下表のとおりとなっている。年代別で見ると65歳以上がやや多くなっており、これは定年等により仕事から離れ、余暇の時間が増えたことにより、健康増進や趣味としてウォーキングに取り組んでいる人が多くいるものと考えられる。また、性別で見ると女性より男性が1,000歩以上多くなっており、これは家事や育児などの分担割合が依然として男性より女性が多いことから、自宅にいる時間が長くなり、歩行数が少なくなっているものと考えられる。

年代	全体	性別	
		男性	女性
20歳以上	5,840歩	6,612歩	5,267歩
20歳～64歳	5,739歩	6,416歩	5,248歩
65歳以上	6,008歩	6,925歩	5,298歩

KPI③ 健幸まちづくり各種イベント参加者数(のべ人数)(人)

→令和4年度は、本事業にて実施したイベントは2回で計650人が参加したほか、他事業のイベントとの連携により実施したものは17回で計736人が参加し、合計1,386人の参加となった。

KPI④ 大仙市健幸経営優良事業所(仮称)認定事業所 認定件数(件)

→制度化にあたっては、他部署との連携が必要であり、現在、制度内容等について検討を進めているところであるが、未だ制度化には至っていない。

引き続き、国や県、他自治体の類似制度を参考にしながら制度化を進め、制度をきっかけとした事業所からの参加を促進していく。

KPI(重要業績評価指標)			基準値	R3	R4	R5	増加分の累計
健幸まちづくりプロジェクト登録者数(人)	実数	目標	8,530	33,530	59,530	75,530	－
		実績		21,683	24,828		－
	増加分	目標	8,530	25,000	26,000	16,000	67,000
		実績		13,153	3,145		
20～64歳の年代別・男女別の歩数の平均値(歩/日)	実数	目標	5,500	6,000	7,000	7,500	－
		実績		5,692	5,739		－
	増加分	目標	5,500	500	1,000	500	2,000
		実績		192	47		
健幸まちづくり各種イベント参加者数(のべ人数)(人)	実数	目標	0	1,000	3,000	5,500	－
		実績		300	1,686		－
	増加分	目標	0	1,000	2,000	2,500	5,500
		実績		300	1,386		
大仙市健幸経営優良事業所(仮称)認定事業所認定件数(件)	実数	目標	0	3	8	18	－
		実績		0	0		－
	増加分	目標	0	3	5	10	18
		実績		0	0		

(4)秋田版スマート農業モデル創出事業

秋田県(秋田県立大学)との広域連携事業

①事業の概要

○事業目的

従事者の高齢化や担い手不足、生産性の低さなど、本県農業が抱える課題の解決に向けて設定した7つの研究テーマについて、産学官が一体となって実証を行い、生産現場への導入と普及を進めることで「儲かる農業」を目指していく。

○事業期間

令和3年度～令和7年度

○取組内容

【Ⅰ】5Gリモート農業

⇒ほ場管理作業の効率化、省力化に向けた在宅による遠隔草刈作業システムや遠隔モニタリングシステムの開発

【Ⅱ】アグリデジタルツイン

⇒仮想空間上に農場を再現し、遠隔操作技術習得シミュレーターや農作業技術シミュレーター、設計試作、AI学習シミュレーター、営農シミュレーター等の機能を搭載したリモート農業の核となる技術の開発

【Ⅲ】超省カスマート農業 ※大仙市 令和4～7年度 実施

⇒秋田県内の企業が製造する自立型ドローン等を活用した新しい播種様式による超省力化・低コスト生産技術の確立と、当該播種様式による新たな水稻直播栽培マニュアルの整備等に向けた実証

【Ⅳ】ICT肉牛放牧による飼養管理

⇒効率的な飼養管理技術の確立に向けた牛体型の3D画像解析技術を活用した健康管理システムや、各種センシングデータを活用した放牧牛群管理システムの開発

【Ⅴ】果菜類収穫ロボットの開発

⇒大玉トマトを自動収穫するロボットの開発及び収穫作業の自動化による効果を最大化する環境整備の研究

【Ⅵ】秋田周年化モデル ※大仙市 令和5～7年度 実施

⇒地下水熱等の再生可能エネルギーを利用した環境制御技術による園芸作物の周年化生産モデルの確立や、市の新規就農者研修施設を活用した遠隔作業指導支援の実施に向けた視野・視点相互共有システムの開発

【Ⅶ】秋田版農業情報基盤の構築

⇒複数集落の連携により従来の集落と同等の機能を維持するコミュニティ型農業を目指し、中山間地域に分散する小規模農家間をつなぐネットワーク基盤を構築

②令和4年度事業

事業費 511,998千円(交付金 255,999千円)

(うち、大仙市事業費 500千円 (交付金 250千円))

アドバイザーボード開催等

→農林水産省職員・専門家等で構成する外部有識者から、推進事業体等の事業計画・進捗に対し、評価・助言をいただいた。

広報・PR

→秋田版スマート農業の普及促進に向け、県広報紙(あきたびじょん1、2月号)に取組事例などの特集記事を掲載し周知した。(全戸配布)

秋田版スマート農業モデル創出事業費補助金

→秋田県立大学が代表研究機関として実施する取組に対して補助。(補助率10/10以内)

[ソフト事業]

○コンソーシアムの取組

産学官の関係者による研究会が開催され、スマート農業の普及に向けて情報共有を図った。

○各研究(7テーマ)の取組

【Ⅰ】5Gリモート農業

- ・試作機を用いた遠隔草刈システムの性能把握
- ・在宅草刈管理システムの構築に向けた仕様の検討

【Ⅱ】アグリデジタルツイン

- ・仮想空間内での草刈り操作習熟システムの完成とマニュアルの整備
- ・施設トマトにおける収穫ロボットの3次元モデルの作成

【Ⅲ】超省カスマート農業

- ・GPS 衛星等を活用したドローンによる水稻直播一貫体系について、大仙拠点における実証試験を開始(見学会2回開催)【大仙市共同実施】
- ・ロボット農機の運用方法の検討

■ 最新スマート農業機械を活用した超省力農業の実演会【大仙市】

【第1回目】

- 開催日:5月6日(金)
 - 実証ほ場:大仙市払田字宝龍地内
 - ★ 農業用ドローンを活用した
「水稻べんがらモリブデンコーティング種子」
直播の実演
- 参加者:28人(市内農業者等)



【第2回目】

- 開催日:8月3日(木)
 - 実証ほ場:大仙市払田字宝龍地内
 - ★ 生育調査
- 参加者:15人(市内農業者等)



【IV】ICT肉牛放牧による飼養管理

- ・健康管理システムの作成に向けた、牛の体型データの取得と解析
- ・放牧管理システムの作成に向けた、GPSや加速度センサーを用いた調査

【V】果菜類収穫ロボットの開発

- ・大玉トマト自動収穫ロボットの開発に向けた、現地試験(AICと県農業試験場)
- ・パワーアシストスーツの有効性と課題の抽出

【VI】秋田周年化モデル

- ・トマトの周年化モデルの確立に向けた、環境制御型パイプハウスを用いた夏場の高温対策の効果検証

【VII】秋田版農業情報基盤の構築

- ・農作業ナレッジの抽出に向けた調査や分析
- ・ラズベリーを対象とした、スマートフードチェーンの構築に向けた調査や試験

○実践的スマート農業教育

- ・大学院向け「スマート農業プログラム」の開講
- ・社会人向け「スマート農業指導士育成プログラム」の開講

○スマート農業普及に向けた農場体験・展示・出前講座

- ・農業高校や団体等を対象にした体験学習会や出前講座の実施

【ハード事業】

秋田県立大学アグリイノベーション教育研究センターに、スマート農業に関する教育・研究の拠点施設となる研究・管理棟を新たに整備した。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI①

米の10aあたりの労働時間削減率(%)

- ・R2年値の労働時間は、H30年値と比べると増加しているものの、R1年値より減少しているほか、10a当たりの米の収量は増加傾向で推移している。
- ・R2年値の労働時間が、H30年値よりも増加した要因としては、作業別の労働時間を比較すると、主に管理、刈取脱穀、乾燥の作業時間が増加したことが考えられる。
- ・管理については、平年に比べて茎数が増加しており、こまめな水管理が必要になったことと、6月の高温・多照で雑草の生育が旺盛となり、草刈りに時間を要したことがあげられる。
- ・刈取脱穀、乾燥については、R2年値の10aあたりの米の収量が602kgと、H30年値に比べて42kg多く、作業に時間を要したことがあげられる。
- ・一方で、育苗、追肥、防除等の作業時間が減少したことにより、R1年値に比べると、全体の労働時間数は減少している。

【10aあたりの米の収量】

	収量(kg/10a)
H30年値	560
R1年値	600
R2年値	602

【10aあたりの労働時間と削減率】

年度	労働時間(時間/10a)		R2年度(H30年値)からの削減率	備考
	目標	実績		
R2	—	21.07	—	H30年値
R3	20.55	21.44	1.76%(増加)	R1年値 ※(21.44-21.07)/21.07×100
R4	19.95	21.26	0.90%(増加)	R2年値 ※(21.26-21.07)/21.07×100

※数値は「農業経営統計調査」の結果をもとに算出していることから、結果の公表時期の関係上、実施年度の前々年の数値を用いている。

KPI②

スマート農業指導士の活動によりスマート農業を体験・実践した農家の件数(件)

→「スマート農業指導士育成プログラム」が開始し、令和4年度は22名の修了生が「スマート農業指導士」に認定された。令和5年度からは、スマート農業技術の普及・指導の活動に取り組んでいく。

KPI(重要業績評価指標)		基準値	R3	R4	R5	
米の 10a あたりの労働時間削減率(%)	実数	目標	0	2.48	5.3	8.78
		実績		△1.76	△0.9	
	増加分	目標	0	2.48	2.82	3.48
		実績		△1.76	0.86	
スマート農業指導士の活動によりスマート農業を体験・実践した農家の件数(件)	実数	目標	0	0	0	30
		実績		0	0	
	増加分	目標	0	0	0	30
		実績		0	0	

KPI(重要業績評価指標)		R6	R7	増加分の累計	
米の 10a あたりの労働時間削減率(%)	実数	目標	12.25	15.72	—
		実績			—
	増加分	目標	3.47	3.47	15.72
		実績			
スマート農業指導士の活動によりスマート農業を体験・実践した農家の件数(件)	実数	目標	110	240	—
		実績			—
	増加分	目標	80	130	240
		実績			